

狭山市教育委員会教育長 様

狭山市立柏原小学校  
校長 小暮 恒二



狭山市立小・中学校管理規則第35条の規定に基づき、下記のとおり報告いたします。

平成22年度 狭山市立柏原小学校 自己評価報告書

1 本年度の重点目標

- ①教育活動をひらく      ②安全・安心な学習環境      ③豊かな心と規律ある態度      ④学力の向上
- ⑤体力の向上 食育の推進      ⑥小中連携教育      ⑦家庭・地域とのネットワーク

2 本年度の経営方針

- ・全教職員の創意を活かし、組織的に魅力ある教育活動を展開する。
- ・教育活動をひらき、保護者との協働、地域との連携を図る。

3 自己評価結果

達成状況 A: 達成している      B: 概ね達成  
C: やや達成不十分      D: 達成できていない

評価領域	No.	評価項目	自己評価	
			達成状況	改善の方策
①教育活動をひらく	1	学校公開、授業参観・懇談会を通じ、本校の教育活動を理解していただくよう努めている。	B	・教育の日の公開等、授業内容を理解してもらおう工夫ができた。 ・授業参観等多くの保護者の参加を得られた。 ・引き続き教育活動を理解していただくため、参加の少ない保護者への啓発、懇談会の工夫に努めていく。
	2	学校だより・学年だより等で、教育活動の様子や成果、課題等について情報提供している。	B	・学校だよりを児童を通じ、地域の関係者に配布をするともに、自治会を通じて回覧するようにした。 ・不審者情報等、適宜保護者に文書発信をして情報提供に努めた。 ・引き続き、保護者や地域の方に学校教育への理解と支援をしていただけよう、情報発信に努めていく。
	3	学校支援ボランティアやSSVCなどの支援を要請し、教育環境の整備、学習活動の充実を図っている。	B	・SSVCや公民館書道サークルの方々の授業支援及び公民館との連携による野菜作り教室等、地域の教育力を学校に招き入れることができた。 ・計画を立て、見通しを持ってSSVCなどの支援を要請し、教育活動の充実を図っていく。
②安全・安心な学習環境	4	事故防止のため、危険を予知させる指導に努めている。	B	・担任からの学級指導、安全部からの全体指導等、学校全体で指導に努めてきた。 ・指導において、個別指導にも力を入れて引き続き事故防止に努める。 ・窓辺の整理整頓など日常生活を通じて児童に事故防止を意識化させていく。
	5	事故やトラブルに対して迅速に対応できている。	B	・問題が発生したときには、管理職に連絡・相談・報告を行い、速やかに対応してきた。 ・今後も事故発生の際には、速やかに対応していく。
	6	日常の安全点検、清掃活動、緑化・掲示など、環境整備に努めている。	B	・安全点検を確実に実施し、修繕するなど安全確保に努めてきた。 ・清掃指導には、ボランティアの協力も得て力を入れてきた。 ・児童とともに安全な環境を整えるという点において、いまひとつであり、児童自らが安全確保に目を向けられるよう繰り返し指導したり声かけをしたりしていく。
③豊かな心と規律ある態度	7	相談しやすい環境があり、児童が学校を楽しいと実感できている。 (児童をよく理解する。人権や生命尊重の教育を十分に行う。)	B	・連絡帳や電話等で、保護者への連絡を密に取ってきた。 ・夏休みに個人面談週間を設けてきた。 ・引き続き児童や保護者から相談しやすい環境、関係に努めていく。 ・普段から一人ひとりとのコミュニケーションを密にする子ども同士の関係を築かせていきたい。
	8	児童に対して自ら範を示し、授業規律・基本的な生活習慣の確立に努めている。	B	・先生方一人一人が、自ら範を示すよう努力してきた。どの学級も落ち着いて学習できている。 ・引き続き言葉遣い等言語環境の整備に努め、豊かな心を育てていきたい。
	9	道徳授業の充実を図り、道徳的実践力の向上に努めている。	B	・全学級の道徳授業公開を実施した。 ・教材(資料)の研究に努め、道徳授業の充実を図ってきた。 ・実践力向上のため、授業後の指導にも力を注いでいきたい。 ・ゲストティーチャーの活用を図り、さらに充実した授業を展開したい。

④学力 の向上	10	学力向上を目指し、児童の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数科では、少人数指導を3年生以上で実施し、必要に応じて個別に指導してきた。</li> <li>学力向上のためのプリントを作成整備し、スキルの時間を実施してきた。</li> <li>児童に学習の仕方を学ばせていくように指導していく。</li> <li>学力に対する危機感に欠ける保護者には、現状を知らせ協力を得られるよう働きかけていく。</li> </ul>
	11	ねらいを明確にし、考える力を伸ばす授業を工夫している。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数科の研究委嘱を受け、授業展開を確立し、課題を板書するなどねらいを明確にして指導してきた。</li> <li>教材開発や具体物の活用をさらに研究していく。</li> <li>個別指導の時間を生み出すよう工夫していく。</li> </ul>
	12	学習内容の定着を図るため学習支援のボランティアを要請したり、家庭学習の充実のため保護者に協力を求めたり体制の整備に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数の基礎基本を定着させるため、サマースクールを実施し、多くの学習ボランティアの協力が得られた。</li> <li>宿題は学年ごとに統一して出すように努めてきた。</li> <li>宿題等への取り組みにおいて、保護者との連携を図っていく。</li> </ul>
⑤体力 の向上 食育の 推進	13	体力向上に向け、児童が体育や外遊びに意欲的に取り組むよう環境の整備を図っている。(取り組みカード、運動の場づくり等)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習カードの工夫、教室からつぼキャンペーンなどを行い体力向上に取り組んできた。</li> <li>低学年児童は、短い休み時間でもよく外遊びができた。</li> <li>業間時間の取り組みを早期から実施する等改善していく。</li> <li>鉄棒・ボール遊びの機会が少ないので場作りを工夫していく。</li> </ul>
	14	運動時間を十分に確保した体育の授業を行っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業で活用しやすいよう校庭のライン引きを計画的に行ってきた。</li> <li>体育実技の伝達講習会を実施し授業改善に努め、充実感を味わわせる授業を目指してきた。</li> <li>体育部を中心にして、本校の体力的な課題を明確にして、体力向上に向けた取り組みに全校で取り組んでいく。</li> </ul>
	15	食に関する指導を積極的に行っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>偏食の子に対して保護者の協力を得て食べられるようにしてきた。</li> <li>食べ慣れていないものは食べない傾向があるが、食の大切さを指導することにより改善の兆しが見えてきている。</li> <li>食に関する指導を計画的に実施していく。</li> <li>栄養教諭を授業や給食時に活用していく。</li> </ul>
⑥小中 連携教 育	16	中学校との行事における連携を積極的に進めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動会、体育祭での交流の他、あいさつ運動やクラブと部活動の交流ができた。</li> <li>年間3回の合同研修会や年間2回の小中連絡会をさらに充実させ、小中間の連絡、相談を積極的に行っていく。</li> </ul>
	17	中学校と相互訪問による授業研究により、教育課程の滑らかな接続を研究する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>13の研究部会で授業参観や授業研究ができた。</li> <li>9年間を見通した指導できるよう研究部会を絞り込んで研究を深めていく。</li> </ul>
⑦家庭・ 地域と のネット ワーク	18	PTA活動や地域活動に積極的に協力している。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師自ら積極的にPTA行事や地域活動に参加してきた。</li> <li>引き続き、協力することにより、教育活動の充実につなげたい。</li> </ul>
	19	公民館、学童保育室、幼稚園・保育所等との連携に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学童職員との連絡を密に取り、児童の指導に活かしてきた。</li> <li>柏原幼稚園や保育所の園児との交流会を実施できた(1年、5年)。</li> <li>公民館、幼稚園等との連携により、地域の教育力との協働を模索したい。</li> </ul>
	20	保護者の協力を得て、教育活動の充実・児童の安全確保などに努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教室や2、3、4年生の生活・総合活動の付き添いで保護者の協力が得られ、安全に実施することができた。</li> <li>図書、園芸、トイレ清掃ボランティアの活動により読み聞かせや環境整備が進められた。</li> <li>引き続き、より多くの保護者の協力が得られるよう努めていく。</li> </ul>

平成 23 年 2 月 21 日

狭山市教育委員会  
教育長 松本 晴夫 様

狭山市立柏原小学校  
校長 小暮 恒二



## 平成 22 年度 狭山市立柏原小学校学校関係者評価書

### 1 自己評価の適切さについて

- ・ 概ね自己評価は適切である。
- ・ 保護者アンケートの項目で「学習したことをしっかり理解できている。」「きまりを守り、だれとでも仲よくできている。」などの項目については、親としては、我が子の教育にともに関わっているので、自らを振り返りあまりよい評価をつけない人が多い傾向にあることを踏まえて自己評価の資料にされるとよいと思う。(実際には、もっとよいと思う。)

### 2 評価委員会で意見のあった項目と意見の内容

#### ◎ 項目 7 について

保護者アンケートで「学校に楽しく通うことができている。」の項目において、「A、できている」64%で、他の項目よりもかなり高い割合となっている。「B、だいたいできている」も合わせると 95%。この数値を高く評価し自己評価に反映させてよいと考える。

#### ◎ 項目 2 について

学級によって学級だよりの発行や日々の連絡が不揃いになると、初めて 1 年生に子どもをあげた保護者は、不安に思う。